

1, 調査報告概要表

平成 19年 10月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション
事業所名	グループホーム「憩」
所在地	福山市山手町1385-1 (電話) 084-951-5505
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 19年 9月 29日

【情報提供票より】(#年 9月 #日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 11月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 14人 非常勤 人 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	59,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含)	有(190,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,260円		

(4)利用者の概要(9月13日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳	最低	62歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福山記念病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は利用者の心に寄り添うケアを実践している。絵が得意な管理者が個々の似顔絵で利用者が一番いい表情を描き、フロアーに飾ってある。各部屋には利用者各々の得意な事で感謝状を贈り、貼ってある。利用者の希望により職員と共に公共のプール、公民館の書道教室、図書館等を利用している。また、職員の手作りの脳トレゲームで知能低下の抑制・防止に役立っている。利用者と職員は共通の楽しみとして菜園を作り、収穫を楽しみにしている。主任は利用者に安心感を持ってもらうために統一した声かけをするように職員に伝え、全ての利用者に笑顔の出るサービスを心がけているのが見受けられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は職員全員で改善策を話し合い、前向きに取り組んだ。しかし、地域との関わりや職員の研修の件などは、管理者が交替して間がないため、なかなか取り組めなかった。地域密着型のホームとして、現在前向きに取り組み中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連事項:外部4)
	自己評価を通して、改めて利用者の心によりそうことの大切さを認識した。外部評価を受ける事により、客観的な目で見、専門的な意見を言ってもらい、質の向上に取り組むみたいと思っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年の春に管理者が交替、最近ようやく落ち着いてきた。運営推進会議の重要性は充分承知している。現在、具体的に話を進めているので、年内には実施の予定である。運営推進会議では報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見を聞き、入居者へのサービスの質の向上に具体的に活かす事が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者担当の職員が生活の様子を知らせる手紙、請求書、金銭出納帳のコピーと領収書を家族へ毎月定期的に送付する。家族らの来訪時に日頃の様子を伝え、積極的に意見を聞く。家族の意見は申し送り全職員へ伝える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の住民として町内会に入会して、回覧・清掃・行事などの地域活動に参加している。また、挨拶は欠かさず、散歩中の方のトイレ借用にも気軽に応じている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの役割は家庭的な環境と地域住民との交流の下で支えられることを職員はよく理解している。利用者が地域の中で安心して暮らすための柔軟な支援として、事業所の理念『和』を大切にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティングや申し送りの時など機会があれば理念に触れ、具体的なケアについて統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の住民として町内会に入会して、回覧・清掃・行事等の地域活動に参加している。また、挨拶は欠かさず、散歩中の方のトイレ借用にも気軽に応じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果を踏まえて、具体的に改善していた。外部評価は客観的な目でみて意見を言ってもらえるので、前向きに取り組んでいける。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の春、管理者が変わり、最近ようやく慣れてきた。運営推進会議の重要性は充分承知している。今、具体化しつつあるので年内には実施する予定である。		運営推進会議では、報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの質の向上に具体的に活かしていくように期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細な事でも生活福祉課や介護課担当と連絡をとり、意見交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。また、図書館・すこやかセンターのプール・公民館講座等を利用者と一緒に職員も利用している。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者担当の職員より生活の様子を知らせる手紙、請求書、金銭出納帳のコピーと領収書を家族等に毎月定期的に送付している。また、家族等の来訪時に利用者の様子を、報告をかねて必ず話をするようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置している。家族等の訪問時には声を必ずかけ、積極的に意見を聞いている。家族等の意見は主任から管理者へと伝わり、その後、スタッフミーティングで話し合う。家族と更に話し合い、結果を申し送りして全職員へ伝えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員の配置転換・離職はあるが、利用者にダメージを与えないようにお別れ会等をして、利用者が納得のいくような配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員には、管理者や主任の日常の業務を通して、自然に馴染んでもらうようにしている。また、職員同士は日頃の話し合いや携帯メール・手紙・職員間だけの連絡ノートを使い、チームの一員として働きながらの学びを重視している。各個人で受けた研修はそれぞれがミーティングで報告をしている		事業所として、職員育成の重要性を認識し、事業所外で開催される研修の機会を確保する事が望まれる。限られた職員体制の中で、実務に支障をきたさないようにするためには、職員と十分に話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づけていくことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々に職員が、これまでの介護歴から培った人脈を通じ交流を深めて、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が、職員や他の利用者に自然に馴染み、安心してサービスを利用できるように、見学や体験入所を家族等に勧め、時間をかけて入所してもらう。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個々の利用者が、力を発揮してくれる得意分野で感謝状を作り部屋に貼ってある。利用者から職員が教えてもらうことは多々ある。利用者から「あんたが居てくれてよかった、ありがとう」と声をかけてもらったり励ましてもらい、それらが職員の励みになっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、利用者がふともらした言葉等を生活記録に記入して、全職員とフロアミーティングの時に話し合う。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の能力を見出し、笑顔の出るケアを目指してうまくコミュニケーションをとるようにしている。その上で、どう支えていくかを課題に、家族から意見をもらい、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族の要望や変化に応じて、実情に合ったケアにつながるよう介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への柔軟な支援として、本人の要望に向き合い、他の施設のデイサービスを2～3人が利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力医療機関で対応している。かかりつけ医との関係は、定期的な受診のほか、利用者の変化や健康面で心配事がある場合、その都度相談できる間柄であり、往診・緊急時もお願ひできる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者を抱えている家族とは終末期に向けた話し合いを医師・職員と共にしている。その他の家族とはまだ、重度化や終末期の話し合いはしてない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	フロアーミーティングの折に、職員の意識統一を図っている。日々の関わり時の言葉かけは職員みんな同じであるように主任が指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人手不足、利用者の状態によりその人らしい暮らしを支援していくのは難しい面もあるが、できるだけ利用者本位の柔軟な対応を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなで作った菜園の野菜も使用して、利用者個々の力を発揮してもらいながら職員と共に食事作りを行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで、会話を楽しみながら食事できる支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お昼から午後7時まで入浴は可能である。タイミングを見て一人ひとりに声をかけ、入浴の回数、時間など、希望に合わせた支援をしている。浴室で職員と昔話をしたり、歌を唄ったりもする。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように利用者の希望に合わせ、公共の温水プール・書道教室に職員と共に参加している。掃除・料理好き、買い物・カラオケ・職員手作りのゲームもいろいろ考案されており、すべて職員と共に楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせて散歩・買い物・ドライブにと外に出かける機会をもうけている。利用者個人の楽しみで温水プール・書道教室等に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎年10月に行なっている。		災害はいつ起こるか分からないので、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えていく事が重要です。職員だけの限界を踏まえ、地域の人々の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行なう等の取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの体調を考え、一日全体を通じた栄養摂取量や水分量をだまかに職員は把握している。医師や看護師の意見ももらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には和室・ソファ・テーブル席があり、利用者の好みで使用している。利用者が安心して居心地よく過ごせる場所になるように室温調節・カーテンやブラインドで光調節・壁飾り等で季節感のあるものを採り入れている。個々の利用者の意見を聞きながら、暮らしの場を整えている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の大好きな縫いぐるみを居室のあちこちで見かける。赤ちゃん人形がベッドで寝ている。使い慣れた馴染みのCDラジカセでカラオケを楽しむ。利用者にとってその人らしく過ごせる部屋になっている。居心地よく安心して過ごすための細やかな配慮がなされている。</p>		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 憩 ユニット 1

評価年月日 19年 9月 29日

記入年月日 19年 9月 13日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 青井 靖修

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念については、職員間で解りやすい言葉でまとめ、共有している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関の見やすい場所に明示し手いる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>利用案内の「文書や説明文を入口カウンターに置いている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者、職員と共にゴミ捨てや散歩等を通じ、日常的に声掛けをしあえる環境が出来ている。散歩中の近所の人々がトイレを借りに来られることもある。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>溝清掃等の町内行事にはスタッフが盆踊りや運動会等のレクリエーションには、入居者・スタッフが参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内清掃などに参加、中学生の職場体験・見学・ボランティアなどの受け入れを実施している。		保育所や小学校の児童との交流も深めて生きたい。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが、それを活かすところまで行っていない。		勉強会等の時間をつくり、スタッフ間で話し合い活かせる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施していない。		家族・地域の人々。スタッフ等が気軽に参加できる会議を年内にも実施したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話・訪問を積極的に行い意見の交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員は常に相談しあい、疑問があれば担当機関や有職者に聞き入居者の利益につながるようように努力したい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底していない。(特に言葉の関係)		資料の準備は出来ているので、早急に勉強会を開きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>電話・手紙・面会を通じて丁寧な説明を心がけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者や家族から意見・要望があれば、その都度スタッフ話し合いそれを入居者・家族に伝え納得頂けるまで、これを繰り返す体制が出来ている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入居者一人ひとりについて、担当スタッフが手紙を書き金銭管理ノートのコピーと領収書・レシートを家族に送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情箱を設置している。また面会に来られた家族には必ずスタッフは声掛けをしており、意見要望は記録し、主任 管理者に伝わる体制が出来ている。スタッフ会議で検討し結果を家族に報告する体制がある。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個々のスタッフとの会話、スタッフミーティングの記録主任会議等を通じ意見・提案を聞いている。管理者は必要に応じて経営会議等を通じて運営に活かせるように努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ、スタッフ・主任・管理者が話し合いその都度調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>月に2度の経営会議において、あるいはその都度社内連絡を行い状況を把握している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的には出来ていない。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・スタッフが個々に同業者とのネットワークを築きつつあり、その情報を共有している。施設見学の受け入れ、訪問も少しづつではあるがふえている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフが安く利用できる接骨院を容易している。忘年会や新年会との催しを会社負担で行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇給・手当等		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が認知症であるため、初期相談においては、家族との話合いが多くなりがちであるが、最終的には本人との話合い聴き取りを重視している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	少なくとも、主任・管理者が同席のもと家族と話し合いが出来るようにしている。家族の訴えを正確に理解できるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループ内事業所や他事業所との連絡や紹介・相談をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間の許す限り見学や体験入所をして頂きご本人・家族・スタッフ同席のもとゆっくりとした状況でお話ができるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時間やタイミングを調整し1対1の個別対応を行っている。時には居室にお邪魔し、入居者の本やアルバムを見せて頂きながら思い出話を聴かせて頂くこともある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に関しての問題は、電話・手紙・面接時に相談することを第一にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族の事情を理解し、それに合わせた対応をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のお手伝い、スタッフが間に入り連絡や中継をする。(電話・手紙を通じて)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの配置を考え仲の良い人同士が集まれ、相性の良くない人とのトラブルを防いでいる。またそのように常にスタッフが入居者の見守り・誘導をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時候の挨拶 (年賀状等)		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の嫌な事はしない、させない事を念頭に置き日々のケアをしている。またケアプランを立てている。入居者様が伝えた内容は必ず生活記録に記入し、他のスタッフにも伝わるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の情報は、すぐにスタッフが確認できる場所に保管してあり、その時々で確認している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿って、必要・重要なことは詳しく、全体的には他のスタッフに解りやすく生活記録を書いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月2回の往診・歯科医・皮膚科・精神科・看護師を確保しており、その意見・助言を踏まえて、本人・家族と相談のもとで計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に状況に応じ介護計画の見直しを行っている。問題疑問が生じた時点で主任・管理者・関係機関に連絡を取り計画を練り直せる体制がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録とは別に、気づきやアイデアがあれば別紙（申し送り＋メモ）に書き他のスタッフが見ることが出来る。必要があればミーティングを開き検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	軽・普通・大型車を個別対応やイベント・ドライブによって使い分けている。中庭での食事・お茶・イベント・菜園の活用も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	移動図書館の利用、公民館の書道教室の利用。消防署との避難・消防訓練の実施。中学生との交流（吹奏楽部のコンサート・体験学習の受け入れ）		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアの利用（本人の意向ある場合）		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			今後、関係を持ち共同していけるよう働きかけたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医と協力病院・歯科・皮膚科・外科・精神科を確保し、往診・受信・緊急時対応など受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診と専門デイケアを利用し、常に相談しながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	周に一度定期的に訪問して頂き、相談や助言をしてもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	総合病院・認知症専門病院・循環器病院		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症の進んだ方が多く、その方の家族・医師・スタッフとは方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師と相談しながらその都度医師の指示を仰いでいる。入居者様の今後の状況を想定し、それに応じた支援を検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	場所が変わる事によって、ご本人が不安・混乱されないよう好みの品物や環境を似せられるよう情報交換を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>すべての職員が徹底できていない。新しいスタッフは入居者様を理解し対応するためには時間が必要。</p>	<p>声掛けや対応の仕方によっては「拘束」なりかねない、ミーティングや勉強会を持ち入居者様に寄り添える対応、声掛けを身に付ける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>ご本人の意思を汲み取るために、辛抱強く聴く姿勢、その方に合わせ「あいうえお」ボードを使用（指差し）何パターンかの質問文を書き、「はい」「いいえ」を選んで（指差し）頂く等</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々それを目指しているが、スタッフの人員不足、入居者様の不調、不穏時の対応等、状況の変化により、より良い支援が出来ない場合がある。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望される方にはそうしている。他の方には理美容師さんに来て頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>積極的に対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師と相談し、家族・本人の理解を求めた上でそれぞれの方に対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて記録を取りながら個別の対応をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者様の希望を第一に、次にタオミングに合わせて声掛けをしている。浴室で昔話を聞いたり、歌を歌うのも楽しみにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	危険がない限りご本人の意思に任せている。居室に戻られる際には室温のチェックに心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方のADLに合わせて、お茶葉の袋詰め・お盆・御皿拭き等の様々な作業のお手伝いを頂いている。カラオケ・クイズ・風船バレー・ちぎり絵等のリクレーションを実施している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望され管理できる方は、自分で管理され、銀行や買物もスタッフが同行・見守りしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その方の体調に合わせて声掛けしながら、遠距離の場合は前もって良い日と時間を伝えて外出支援をしている。家族に連絡し協力して頂くこともある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望者に対してはそうしていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意のもと支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方は記録に残し、その情報をスタッフが共有し、次に来られた時に適切な対応が出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解はしている。があらゆる場面においてその行為・対応が身体拘束になっていないとは言い切れない。		繰り返しの学習が必要である。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解しているが、スタッフがその場に不足して、見守りが出来ず、一時的に通路の一部に鍵を掛けることはある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室の窓には飾り紙を張らせて頂いている。立位・歩行不安定な方は少し隙間を作り、見守り可能な状態を保っている。昼中・夜間を問わず定期的な巡回又は声かけを心がけている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守り出来る範囲では、ハサミ・包丁も使って頂いており、管理はスタッフが行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれマニュアルを作成しているが、勉強会等での繰り返し学習が不足しており、認識不十分な面もある。		学習会の実施・講習会へ参加し、スタッフ原因で情報の共有化に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	発生時の連絡対応については、目に付く場所にマニュアルを貼る等しているが、応急手当や心肺蘇生等の訓練は不十分である。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難・消防訓練の時等、地域の方々にも参加していただけるよう働きかける。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様も状況は手紙・面会時に報告している。必要と考えられる場合は、往診・受診時に家族の同席を求め理解を得られるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変は発見時にすぐ記録し、主任又は管理者に連絡、必要と考えられる場合は医師に相談、家族に報告する体制をとっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が、すべての方の薬について熟知しているとはいえない。服薬が変更されたり症状の変化については細かく記録し、報告することを徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	充分とは言えない。身体を動かすことについては、ラジオ体操・ゲーム散歩等を通じ積極的に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	最低でも就寝前の口腔ケアは、スタッフが関わりチェックするようにしている。希望者・必要のある方は歯科医訪問にて毎月1回口腔ケアを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりについて体調管理をし、医師・看護師の意見をふまえ計画を立てている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	現在特にはしていないが、衛生を保つことを心掛け不衛生になりがちな事に関しては気配りするように注意している。入居者に異変・兆候が見られた場合は、即座に医師に相談・受診するよう指示を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	魚介類は当日新鮮な物を購入している。野菜は業者より新鮮なものを仕入れている。食材の出っぱなしのない様注意し、消費期限のなくなった食材は破棄するように決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関導入部には花の鉢植え、植物を置く等している。日中ご近所の方が通り抜けたり、トイレを借りに来たりするので、正門は8時半、裏は7時頃には開放している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感のあるものを飾るようにしている。音や光については、入居者様一人ひとりの好みが違うので、その都度お願いをしたり、声掛けをしながら対応している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室・テーブル席・ソファ等それぞれくつろげるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望に添った居室になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	失禁の多い方は、特に食事のお茶等居室を出ている間に、換気・空調等の調整をさせて頂いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺に関しては不備がみられる。今後の入居者様のADLの低下を考えると、トイレ・浴室等も検討が必要と思われる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員一人ひとりがよく頑張っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階バルコニーと駐車場を使い、食事やお茶・イベントに活用している。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方たちとスタッフが一人ひとりの人として安心し、信頼しあい日々生きて行ける環境を大切にしています。

一緒に悩み・笑い・泣ける、入居者様とスタッフで我が家の憩いを一緒に作り上げて生きたいと思っています。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 憩 ユニット 2

評価年月日 19年 9月 29日

記入年月日 19年 9月 13日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行なって下さい。

記入者 職 管理者 氏名 青井 靖修

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員間で解りやすい言葉でまとめ、共有している。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	玄関の見やすい場所に明示し手いる。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	利用案内の文書や説明文を入口カウンターに置いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常生活（ゴミ捨てや散歩）の中で自然に挨拶を交わしている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内の清掃活動等の行事には職員が盆踊りや運動会等のレクリエーションには、入居者・職員が参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内清掃などに参加、中学生の職場体験・見学・ボランティアなどの受け入れを実施している。		保育所や小学校の児童との交流も深めて生きたい。
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが、評価後の結果を踏まえての取組みは不十分である。		評価結果・改善策等を話し合い職員全員が認知しケアに活かせる体制を作りたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施していない。		家族・地域の人々。職員等が気軽に参加できる会議を年内にも実施したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活福祉課・介護課の担当の方とは、電話・訪問を積極的に行い意見の交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員は常に相談しあい、疑問があれば担当機関や有職者に聞き入居者の利益につながるようように努力している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待に付いては、認識の甘い点が見られる。(入居者同士の口論、それに関する職員の態度等)		勉強会を開きしつかりした認識を持ち良いケアにつなげたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>電話・手紙・面会を通じて丁寧な説明を心がけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望があれば、その都度職員話し合いそれを入居者・家族に伝え、不満・疑問があれば何度も話し合いを持つ体制が出来ている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入居者一の様子について、担当職員が手紙を書き金銭管理ノートのコピーと領収書・レシートを家族に送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に古相箱を設置している。また面会に来られた家族には必ず職員は声掛けをしており、意見要望は記録し、主任 管理者に伝わる体制が出来ている。職員会議で検討し結果を家族に報告する体制がある。また申し送り等で全職員が共有している</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個々の職員との会話、職員ミーティングの記録主任会議等を通じ意見・提案を聞いている。大きな問題は管理者は管理者会議・経営会議等で話し合いより良い運営が出来るよう努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ、職員・主任・管理者が話し合いその都度調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最低でも月に2度の経営会議において、あるいはその都度社内連絡を行い状況を把握している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的・積極的とは言えない。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が個々に同業者とのネットワークを築きつつあり、その情報を共有している。施設見学の受け入れ、訪問も少しずつではあるがふえている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が安く利用できる接骨院を容易している。忘年会や新年会との催しを会社負担で行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇給・手当等		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談においては、家族主導になりがちだが、最終的には本人との話し合い聴き取りを重視している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度でも、電話・面会等で話しを聞き、家族の訴えを正確に理解できるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、グループ内事業所や他事業所との連絡や紹介・相談をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	時間の許す限り見学や体験入所をして頂き入居者・家族・職員同席のもとゆっくりとした状況でお話ができるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時間やタイミングを調整し1対1の個別対応を行っている。時には居室にお邪魔し、入居者の本やアルバムを見せて頂きながら思い出話を聴かせて頂くこともある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に関しての問題は、電話・手紙・面接時に相談することを第一にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一方的に家族に伝えるのではなく、「どうお考えになりますか？」と相談し一緒に考えていく姿勢を持っています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙（ハガキ）や電話のお手伝い、職員が間に入り連絡や中継をする。（電話・手紙を通じて）		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの配置や声かけの仕方、順番、仲の良い人同士が集い、相性の悪い人は距離が取れるように配慮し常に職員が入居者の見守り・誘導ができるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時候の挨拶 (年賀状等)		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望・意向を聞いた職員は必ず他の職員に伝え記録する。また本人が喜んでいるかどうかを目安に話し合いをしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の情報は、すぐに職員が確認できる場所に保管しており、その都度再確認しながら進めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の記録を月単位・3ヶ月単位に再確認検討している。又ミーティング、ケアプランで検討された事柄については細かく記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	協力病院に月2回の往診・歯科医・皮膚科・精神科・看護師を確保しており、その意見・助言を踏まえて、本人・家族と相談のもとで計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に「これで良いのか?」という疑問を持ちながら計画を進めている。入居者様の変化に合わせて介護計画を練り直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録とは別に、ノートを作り気づきや感想を書き、職員は共有し、必要があればミーティングを開き検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	3種類（軽・普通・大型車）の車を必要に応じ使い分け、個別対応やイベントに使っている。中庭での食事・お茶・イベント・菜園の活用も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署との避難訓練の実施。すこやかセンター内の温水プールの利用。中学生との交流（吹奏楽部のコンサート・体験学習の受け入れ）を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイケアの利用（本人の意向ある場合）		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医と協力病院・歯科・皮膚科・外科・精神科を確保し、往診・受信・緊急時対応に備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診と専門デイケアを利用し、常に相談しながら支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度、定期的に訪問して頂き、相談し助言していただいている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	総合病院・認知症専門病院・循環器病院		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症の進んだ方が多く、家族・医師・職員とは方針を共有している。お元気でクリアーな方にはあえてお話をしていない。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師と相談しながらその都度、医師に受診・往診にて指示を受けている。今後の状況を想定し、それに合わせた支援を検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	場所・環境が変わり、入居者が不安・混乱されないよう好みや馴染み、その方のADLに合わせたケアの情報交換を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けや対応に配慮が足りないと思える事がある。</p>	<p>声掛けや対応の仕方によっては「言葉の拘束」なりかねない、ことをしつかり職員に伝え、認知してもらえるような勉強会を持ちたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>発語の悪い入居者様には、大きな文字で質問をパターン化して書き「はい」「いいえ」を指差して選んで頂き、意思を汲み取るようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の人員不足、入居者様の不調、不穏等が重なった時より良い目指す支援が出来ない事がある。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>殆んどの方は訪問して下さる、美容師さんにしていただいているが、息子さんがする方、馴染みの店に行く方もおられる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>解らなくなった方が多いため、して頂ける内容は非常に少なくなっている。職員が見守られる範囲では野菜切り等もして頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師と相談し、家族・本人の理解を求めた上でそれぞれの方に対応している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの記録を確認し、個別の対応をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決して無理をしないよう声かけをしている。入浴されれば、職員と談話をしながら、昔話を聞いたり、歌を唄って楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的に入居者の自由意思に任せている。室温のチェックを職員が入室させて頂き行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方のADLに合わせて、お盆・お皿拭き等のお手伝いを頂いている。折り紙・塗絵・書道等のリクレーションを実施している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者で理解・管理できる方はお一人だけですが出来るだけ外出する機会をつくり希望に添い楽しんでいただけるよう努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調とタイミングに合わせて外出の機会が増えるよう努めている。家族の方にも協力して頂き外出されることも増えている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	積極的に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意のもとに支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方は記録に残してあり、次に来られた時に適切な対応が出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解はしているが全てのケアにおいて職員の行為・対応が身体拘束になっていないとは言いきれない。		「これで良いのか？」と問いかけながらケアについての学習の時間を増やしたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解しているが、他者とのトラブルを回避（夜間・早朝の人員が少ないとき）するために鍵をかける事がある。入居者が居室にいて望む場合もある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室の戸の窓に飾り紙を張らせて頂いている。隙間から見守り確認を行う。昼夜を問わず巡回して入居者様の様子を把握している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が見守りをしながら、ハサミ・包丁等を使用して頂いている。管理は職員が行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれマニュアルを作成しているが、それに即した実技訓練が不足している。認識不十分な面もあると思われる。。		学習会の実施・講習会へ参加し、職員原因で情報の共有化に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル化して職員ルームに貼り付けている。訓練は不十分と考えられる。		訓練・勉強会に実施
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎年実施しているが、夜間の対応には不安がある。		避難・消防訓練の時等、地域の方々に参加を呼びかけている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様も状況は手紙・面会時に報告している。必要と考えられる場合は、往診・受診時に家族の同席を求め理解を得られるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変は発見時は記録と共に、主任又は管理者に報告、必要と判断した場合は医師に相談、家族に報告する体制が出来ている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が、全ての方の薬について熟知しているとはいえない。服の変更時、服薬後の症状の変化については細かく記録し、報告することを徹底している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	充分とは言えない。身体を動かすことについては、体操・ゲーム・散歩等を通じ積極的に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は行っていない。就寝前には職員が関わり声掛け支援をしている。義歯の方は週に一度定期的にポリドントをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりについて体調管理をし、医師・看護師の意見をふまえ計画を立てている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	便汚染には特に気配り対応している。入居者に異変・兆候が見られた場合は、即座に医師に相談・受診するよう取り決めがなされている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	魚介類は当日新鮮な物を購入している。野菜は単一業者より新鮮なものを仕入れている。食材の出っぱなしのない様注意し、消費期限のなくなった食材は破棄するように決めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	足元不安定な方が多いため、なるべく物を置かず手摺や壁を伝って、又はシルバーカーでゆったり歩いていただけるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の要望に応じ、その都度ブラインド・カーテンで光の調整を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間のトラブルが多い為、テーブルの配置には特に気を配っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者・家族と相談し入居者の希望に添った居室になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	失禁の多い方は、特に気を配って換気に努めている。寒がりの方が多いので温度調節もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺に関しては不備がみられる。入居者様の身体機能を活かしかねず、職員の介助を受ける場合がある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員一人ひとりが精一杯頑張っている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	2階ベランダで洗濯物を干したりたたんだり、1回のバルコニー・駐車場でお茶・食事・イベント等に活用している。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)